

# 2013年3月期 連結業績概要 2014年3月期 連結業績見通しについて

TDK株式会社  
代表取締役社長  
上釜 健宏

# 2013年3月期 連結業績概要



(億円)	2012年3月期 通期実績 (2011.4.1~2012.3.31)	2013年3月期 通期実績 (2012.4.1~2013.3.31)	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	8,145	8,516	371	4.6
営業利益	187	216	30	15.8
営業利益率	2.3%	2.5%	0.2 pt	-
継続事業税引前利益	122	189	66	54.0
当期純利益	△ 25	12	36	-
1株当たり利益(円)	△19円6銭	9円50銭	-	-
為替	対ドルレート	79円7銭	83円3銭	5.0%の円安 1.8%の円高
	対ユーロレート	109円6銭	107円5銭	
為替変動による 影響金額	売上高：約324億円の増収 営業利益：約41億円の増益			

## ◆連結売上高は前期比4.6%増、営業利益は前期比15.8%増

- 2期連続で期初業績予想を大幅下方修正
- 通信分野向け受動部品売上高の増加が想定を下回って推移
- ”産業機器及びその他”の売上高が前期比11.8%減少(\*1)
  - 産業機器市場の低迷
  - 主に受動部品、磁石、電源の売上高が減少
- 金属磁石の主原料（レアアース）価格の大幅下落に伴う在庫評価損等
- HDD市場が期初想定を大幅に下回って推移

## ◆成長に向けた基盤構築のための構造改革実施

- 受動部品を中心とした構造改革を実施し計画どおり完遂

## ◆期末配当金見通しは30円（1月31日時点見通しと同額）

- 中間配当金40円（実績）と合わせ通期配当金見通しは70円

\*1) 分野別売上高推移についての詳細は27～30ページに掲載しています

# 2014年3月期 連結業績予想及び配当金見通し



	(億円)	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期予想	対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高		8,516	9,300	784	9.2
営業利益		216	300	84	38.9
営業利益率		2.5%	3.2%	0.7pt	-
継続事業税引前利益		189	280	91	48.1
当期純利益		12	130	118	983.3
1株当たり利益(円)		9円50銭	103円34銭	-	-
配当金(円)		上期：40円(実績) 下期：30円(見通し) 年間：70円(見通し)	上期：30円(見通し) 下期：40円(見通し) 年間：70円(見通し)	-	-
為替	対ドルレート	83円3銭	90円	-	-
	対ユーロレート	107円5銭	118円	-	-

- 目指す姿実現までのステップイメージ
- 成長に向けた事業基盤構築
- 成長シナリオ

## 事業環境変化に対応するための 踏み込んだ構造改革実施 (2012年3月期～2014年3月期)

- 事業ポートフォリオ適正化
- 生産拠点の最適化
- コスト構造の見直し
- 成長分野へのリソース重点配分

## 目指す姿実現

(2015年3月期～)

- ・非中核事業からの撤退
- ・国内外拠点の統廃合  
(統廃合公表済み以外の拠点)

- ・受動部品の国内拠点統廃合
- ・有機EL事業売却
- ・遊休資産売却
- ・国内外の人員削減

- ◆13年3月期：受動部品を中心とした構造改革実施
- ◆14年3月期：事業ポートフォリオ適正化・構造改革は終盤戦

## 事業ポートフォリオ 見直し推進

- ・ブルーレイ事業からの撤退、売却、譲渡（～14年3月）
- ・他事業及び製品毎の見直し継続

## 生産拠点最適化

- ・国内外拠点の統廃合推進（統廃合公表済み以外の拠点が対象）
- ・直接及び間接コスト最適化など

効果金額見込み  
80億円  
(2015年3月期)

■構造改革費用として2014年3月期に100億円計上予定

徹底的なコスト構造の見直し

## 成長分野・中核事業に経営資源を集中

## 受動部品

成長戦略の中核と位置づけ**収益の柱**へと再生

- ・スマートフォンなど通信機器向け高周波部品は再び成長軌道へ
- ・インダクティブデバイスは通信・自動車分野を中心に成長継続
- ・セラミックコンデンサは構造改革を完遂し収益安定化、成長戦略へシフト

## 記録デバイス

(磁気応用製品)

HDD業界の変化を受けて

唯一のヘッド**専門メーカーとしての  
ポジション**を生かした**安定収益事業**へ

- ・データセンター向けヘッド開発強化
- ・熱アシストヘッド量産化加速
- ・ヘッド技術を応用した電子部品開発推進

## 二次電池

(フィルム応用製品)

垂直統合ビジネスモデルにより

**次なる成長ステージ**へ

- ・材料～セル～パッケージングまで垂直統合(\*1)
- ・磁気テープで培った技術を応用し機能性フィルム・セパレータ事業拡大(\*2)
- ・電極材料の自社開発推進
- ・スマートフォン・タブレット端末以外の顧客・アプリケーション開拓

\*1：2013年3月期 第2四半期においてNavitasys Technology Limited社買収（パッケージング）

\*2：2011年11月 日東電工（上海）電電源に65%出資し、2013年3月31日現在78%保有（セパレータ）

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。  
[http://www.tdk.co.jp/ir/ir\\_events/conference/2013/4q\\_1.htm](http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2013/4q_1.htm)